

報告書

カヤック インストラクター/ガイド ベーシック検定会 宮城県仙台市会場

2018.4.27 アースクエスト 紺野祐樹

○概要

実施日：2018年4月18日(水)～19日(木)

会場 学科：宮城県仙台市・アースクエスト 実技：宮城県東松島市 月浜

受験者数：3名 合格者数：3名 入会希望者：3名（入会金・年会費主管預かり）

○開催の経緯

受験者の開催要望に基づき手、開催しました。受験者は、青森県西目屋村で、ラフティングとカヤック体験を主宰している団体スタッフ3名。地域おこし協力隊関連の研修を兼ねているようでした。

○学科講義・試験

学科講義は、アースクエストの事務所で行った。今回の概論では、協会の規定類の説明に定款および規程集を使用した（受験者が印刷して持参）。実際に定款や規程集を見てもらうことで、どんな協会なのかを的確に伝えることができた。特に受験者から質問の多い、マーク規定及び公認スクール規定については、丁寧に説明を行った。規程集を実際に見ることで、曖昧な点を排除してしっかりとした説明が出来た。

安全に関する項目では、パドリングシーン特有の疾病の問いかげと、その対処、応急手当、予防法に関してポイントを絞って伝えると共に、「予防」が重要なこと、一般レベルの救急法では無く、現場で使える救急法を身につける必要性を、法的な責任とともに説明した。また、リスクマネジメントに関しては、事故発生の要因分析から特にリスクの洗い出しの重要性、様々な事態を想定して事前にその対策を具体化することの必要性を強調して講義した。

基礎知識では、ワークショップ形式で参加者にウェアリングを伝えることを導入に、3要素に応じた装備の選択、パドリング技術の基礎的事項を、受験者が自信で考えることを重視して講義を展開した。

○実技検定

実技検定は、潮位の関係で松島湾内が使用できず、東松島市月浜での開催となった。当日は若干のうねりの侵入があったので、パドリングをして浪裏の浜（唐戸島）に移動して検定を行った。尚、アースクエストスタッフ2名（K1、KB）、昨年仙台会場で受験後資格取得したKB1名が見学参加した。

・漕艇技術

検定課目の簡単な説明後に検定を行った。前漕者は、昨年ベーシック検定取得し、今回の検定にも見学で参加したベーシックインストラクターに依頼した。

受験者は、レンタルのベスパで2名、持ち込みのリバーカヤックで1名が受験した。尚、ベスパでのスピンに関しては、艇の特性から来る受験生への負担を軽減するため左右それぞれ1回転で判定した。判定に関しては特に問題なく行えた。

漕艇技術のフィードバックでは、スウィープストロークを題材に、キャッチとは何か、効率よく目的を果たすためには、パドル・体・カヤックをどのようにすれば良いのかをデモを交えてレッスンし、「考える」パドリングの重要性、体系的な技術について実地に体感してもらった。

・指導法

すでに事業としてパドルスポーツに取り組んでいることもあって、非常にスムーズに模擬講習を行っていた。検定前の準備時に、太陽の方向や風向きに対する配慮を意識していなかったようなので、フィードバックで現場の環境に応じて艇の配置や立ち位置を考える必要性を実際に体験してもらいつつ指摘した。

・安全講習

レスキュー時に重要な、対象に艇を寄せる操作を中心にしたボートコントロール、自分の後方で起こったトラブルを想定して、Uターンして艇を寄せるトレーニング、Tレスキュー（TXレスキュー）、セルフレスキュー、トローイングなどを講習した。全員ドライスーツを着用していたので、低水温季でも問題なく講習が出来た。

Tレスキューでは、浮力体無しの艇のレスキューが、いかに困難かを体験してもらった。セルフレスキューは、馬乗り再乗艇、トローイングについては、道具が無い場合にどうすれば良いのか、現場で考えてもらった。最後に、パドル、艇、人が分離した状態でのレスキューについて、事前に課題を出して、海上で実践してもらった。今回は、レク艇が無かったので、艇種に応じた難しさや、事前トレーニングの重要性については、講習内で口頭により伝えた。

○総括

今回の検定会では、事前講習の要望が無かったため、実技検定に関する不安があったが、3名ともある程度以上の現場経験をお持ちのようで、学科・実技共に大きな問題も無く検定会を進めることが出来た。受験された3名については、同じアウトフィッターのスタッフ同士と言うことも有り、全スタッフで共通の安全に関する講習を受けられたメリットは大きかったと思う。

尚、合格した3名については一般会員への入会を希望しております。公認スクール申請については、ラフティングとの兼ね合いもあるようで、検討事項になるようです。

